

第2回留萌教育局管内特別支援連携協議会の概要

令和6年（2024年）2月14日（水）に実施した本協議会では、事務局から今年度の取組を報告するとともに、名寄市立大学 奥村講師が第2回専門家チーム会議の報告を行いました。また、北海道小平高等養護学校 齋藤校長が本校の取組について発表し、今年度の重点に係る取組状況の成果と次年度の展望等について協議を行いました。



【会議の様子】

①説明 【留萌管内の今年度の実施状況と次年度への課題】

- 保護者への説明、個別の教育支援計画の作成と日常的な活用や見直し、特別な教育的支援が必要な児童生徒の教科指導に係る研修を推進し、専門性の一層の向上を図っていく必要がある。
- 個別の指導計画及び教育支援計画への保護者の意向の反映や、評価改善等、諸計画の活用を促進、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要と判断した幼児児童生徒において、保護者の同意を得られるよう教育支援計画の作成の意図等を丁寧に周知していく必要がある。

②発表 【今年度の北海道小平高等養護学校の取組 齋藤 利文 校長】

管内唯一の特別支援学校として特別支援教育のセンター的機能を発揮している小平高等養護学校の今年度の取組と今後の展望について発表いただきました。

1 パートナー・ティーチャー派遣事業

実績：24校、105件
リモートでも実施しているが直接訪問の要請が多い。

2 専門家チームによる巡回相談

実績：13件（検査12件、研修1件）
相談内容を日々の支援や諸計画の見直しにつなげていきたい。

3 その他の相談業務等

就学相談：53件、トライプロジェクト：75件

4 特別支援教育の充実に向けて

多様な学びの場の充実や幼児期から学校卒業後までの切れ目のない一貫した指導や支援の充実のための就学前からの支援体制の整備、特別支援教育の質の向上のための教員の特別支援教育の専門性の向上及び障がいの重度・重化、多様化及び医療的ケアに向けた対応が必要である。

個別の教育支援計画等の引継ぎ及び活用、就学相談の充実を図る必要がある。

③協議 【今年度の重点の取組状況について】

重点① 全ての関係者による専門性の一層の向上	重点② 幼児期からの指導や支援のつながりが切れぬ体制づくり
<ul style="list-style-type: none">特別支援教育コーディネーターを講師とした校内研修の計画的・継続的な研修の実施、個別の指導計画を用いた事例検討、アップデート研修や各種研修会への参加若手教員に特別支援学級の担任を経験させる等、計画的な人材育成及びOJTの推進パートナー・ティーチャー派遣事業の活用による支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none">「つながり留」を活用した関係機関との連携による組織的な支援入学当初に各町村の支援部会や保護者を交えたケース会議を開催し、必要な支援について検討するとともに小学校及び中学校からの確実な引継ぎを実施高等学校と公共職業安定所の連携による障がいのある就職希望の生徒への支援

④まとめ 【名寄市立大学社会保健福祉学科 奥村 香澄 講師】

重点① 継続可能で計画的な研修の実施、セミナーの受講が見られたことから、今後に向けては先取りして知識を得たり、得た知識を活用できるようにしたりするための校内的なプロセスの構築が必要である。

重点② 「つながり留」の活用が非常に重要であることから、保護者にとって活用しやすい書式、幼児児童生徒の発達水準に合わせた意味のある引継ぎに向けて取り組んでいく必要がある。
進学、就労等を見据えた支援については、小学校段階から発達のステージに応じた支援先を保護者や本人に提示し、管内で連携を強めて支援していくことが大切である。
個別の教育支援計画の引継ぎについては、時期や方法、担当者を明確にする必要がある。

★第2回専門家チーム会議（令和6年2月14日実施）★

巡回相談における指導助言と運営について協議を行いました。

専門家チーム内で仮想事例の検討や検査結果の読み取り等に係る研修の実施を通して、児童生徒一人一人の認知特性に応じた指導や支援の充実を目指すこと、個別の教育支援計画の活用や見直しについて、巡回相談の機会を活用することなどが協議されました。

本会議での協議を踏まえ、次年度に向けて巡回相談の充実を図っていく予定です。